

I 実践

1 研究主題

差別や偏見をもたずに、互いのよさを認め合う人間関係や人権意識を育てるための指導の在り方

学校の全教育課程を通して、思いやり、助け合い、奉仕の心を育てる

(1) 主題設定の理由

本校では、校訓を「やさしく かしく たくましく」とし、「元気いっぱい、夢いっぱい、きらり輝く感性豊かな大沼っ子の育成」を教育目標としている。それを受けて、人権教育の目標を各学年の発達段階に応じて、友達と仲良くしたり、相手の気持ちを考え思いやりの心をもって助け合ったり、相手の立場を尊重しながら行動したりできることとした。そこで、児童一人一人がいろいろな人との関わりや直接体験することを通して、自分と同じように他の人も大切に思い、相手の良さや自分の良さを進んで認め合うことができるようにしたいと考え、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ア 各教科、学級活動、道徳、総合的な学習の時間を中心とした全教育活動における人権教育の充実
- イ 保護者や地域に広げる人権意識高揚のための活動の設定
- ウ 職員への人権に関する意識を高める研修の充実

2 実践内容

(1) 道徳の実践

『わたしのいもうと』(松谷みよ子)などの題材を選び、作成したワークシートを活用しながら、自分の内面とふれあい、考えを深められるように心がけた。また、授業を公開して、人権教育に対しての理解や啓発を図った。

各クラスで「自分を大切に・友だちを大切に」などの道徳コーナーを設け、友達から親切にされたことや自分の頑張ったことを児童が書き、掲示している。



(2) 保健の時間〔親子研修会〕の実践(第4学年)

第4学年の親子研修会で、助産師を講師に迎え、児童と保護者が一緒に「いのちの教育」を受講した。

第1部(児童・保護者)

- ・助産師さんの話「命の大切さについて」
- ・妊婦擬似体験
- ・母親の話「あなたが生まれとき」
- ・赤ちゃん人形抱っこ体験
- ・児童の感想発表

第2部(保護者のみ)

- ・助産師さんの話「思春期の子どもの変化と、親の対応方法について」
- ・質疑



(3) 総合的な学習の時間〔きら☆らの時間〕の実践

きら☆らの時間に、高齢者体験、手話体験などの福祉学習を行った。



(4) 異学年集団との交流

本校では、毎木曜日に通常よりも10分長い25分間の昼休みロングを設け、異学年で遊んだり愛校作業を行ったりしている。異学年交流では、1年生と6年生、2年生と5年生、3年生と4年生というように上級生と下級生がペアになって遊んでいる。遊びの内容は上級生が下級生でも楽しく取り組めるような遊びを考え、工夫して決めている。

(5) 帰りの会での友達への賞賛

帰りの会では、各学年の実態に応じ、友達の良かったところや頑張ったところを発表する時間を設けている。

(6) 地域の人たちとの交流

9月に行われた大沼学区敬老会では、1年生から3年生までの児童が参加し、劇や音楽の発表を行った。また、交通安全メッセージを配付した。



3 成果

- (1) 学習の時間や休み時間、清掃の時間など日常生活の中で、相手を認め仲良くすることや協力することの大切さを指導してきている。普段の指導を大切にすることが人権教育の充実に繋がっていることを実感した。
- (2) 保健の時間の「いのちの教育」では、自分一人一人の命がかけがえないの大切なものであることや生まれたばかりの命の重さを体験することができた。また、保護者のみに行った「思春期の子どもの変化と、親の対応方法について」の助産師さんの話では、「普段なかなか聞くことのできない心と体の発育について聞くことができ参考になった」と好評だった。
- (3) 総合的な学習の時間の「人にやさしく」では、普段気づかない老人の苦労や障害者の気持ちや自分たちにできることを直接体験することで、感じる事ができた。
- (4) 昼休みロングでは、普段なかなか関わる事のない異学年と一緒に楽しく遊ぶことができた。上級生は、遊びを考え進行する中で、下級生に対して思いやりの心をもつことができ、下級生は、遊びを考え教えてくれた上級生に対して、親しみや感謝の気持ちをもつことができた。また、学年をこえて、誰とでも仲良く遊ぶことの大切さを学ぶことができた。
- (5) 帰りの会での友達への賞賛では、友達に優しくしてもらって嬉しかったことや、友達が勉強や運動で頑張っていたことなどを積極的に発表するようになってきた。お互いの良さを見つけ合うことで友達を尊重したり、大切にしたりしようとする気持ちが育っている。
- (6) 地域の人と楽しく、触れ合う機会を得ることができた。

II 今後の課題

- ・ 各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間など全教育課程を通して、思いやり、助け合い、奉仕の心を育てられるように継続して指導していきたい。
- ・ 児童は、友達と仲良くすることやお互いの良さを認め合うことが大切だと分かっているが、自分の行動に結びつけることができないことが多い。今後も、異年齢者、高齢者、障害者などいろいろな人との関わりや体験を充実させて、児童の人権意識を高めていきたい。
- ・ 児童が人権についての知的理解を深められるような指導を進めるために研修を充実させ、教師自らの人権意識を高めるようにしていきたい。
- ・ 人権コーナーを設置し、児童が人権に触れて、理解を高める機会づくりをしていきたい。